

第3部 子どもたちの絵による事業評価の試み

「わかさわん うみはともだち」に参加した子どもたちが描いた絵について

【内容】

「わかさわん うみはともだち」事業において、子どもたちが学んだことや気づいたことを明らかにするために、文章による記述ではなく、「わかさわん うみはともだち」に参加する子どもたち（小浜市内の保育園、幼稚園の年長児 241 名）に活動の前と後で「海や山」の絵を描いてもらうよう、各園に依頼した。なお、子どもたちの絵による事業評価の試みについては、東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター特任講師鈴木悠太氏にも参加していただいた。

- ① 「わかさわん うみはともだち」の実施前に、各園で時間を作ってもらい、子どもたちに「海や山」の絵を自由に描いてもらう。
- ② 「わかさわん うみはともだち」の実施後に、各園で時間を作ってもらい、子どもたちに「わかさわん うみはともだち」で体験した「海や山」の絵を描いてもらう。

以上のようにして子どもたちが描いた絵①と②を見比べて、どのようなことが見て取れるのかを検討していきたい。

実施前に描いた絵を「左」に置き、実施後に描いた絵を「右」に置き、2枚の絵を並べた。

【平成27年10月14日（水）に参加した園の子どもたちの絵】

すべての園が大浜での海の活動を体験し、午後は山での活動を実施した。



園児 A の絵



実施前

実施後

園児 B の絵

園児 A の絵には、実施前では人が描かれていないが、実施後では笑顔の 5 人が描かれている。また、園児 B の絵は、実施前では 2 人描かれていたが、実施後は 7 人に増えている。本事業で、園の友達と一緒に海の活動をしたことが印象に残っているのだろう。実施後に描かれた絵は、どの顔も笑顔であった。



実施前

実施後

園児 C の絵



実施前

実施後

園児 D の絵

園児 C、園児 D の絵とも、実施前の絵は海に入ってはいないが、実施後の絵は、海に入っているように見える。海の活動では、ほとんどの子どもたちが海に入って遊んでいた。海を見るだけではなく、実際に海に入って遊んだことの印象が強かったのだろう。



園児 E の絵



園児 F の絵

園児 E、園児 F の絵とも、実施前に描いた絵の海は、水面が平坦に描かれている。実施後に描いた絵は、水面が波打っている。海の活動で子どもたちは、打ち寄せる波に足を浸し、時には寝転んだり座ったりして、波の力を感じていた。そして、砂浜から間近に海を眺めてみると、その水面は波打ち、光をキラキラと反射していた。こうして自分の目で見たことが絵にも表れているのではないかと考えられる。

また、園児 F の絵をみてみると、実施前は靴を履いている。しかしながら、実施後は、描かれた全員が裸足になっている。実際の海の活動では、はじめは靴を履いていた子どもたちが、すぐにそのほとんどが裸足になって遊びはじめていた。靴を脱いだ時、足の裏で感じる砂の感触、足で感じた海の冷たさ、それが子どもたちの絵にも表れているのではないか。

【平成27年10月20日（火）に参加した園の子どもたちの絵】

1つの園が海の活動を岩場（タイドプール）で実施し、その他の園は砂浜で活動をした。午前に海の活動を、午後に山の活動を実施した。



実施前

実施後

園児 G の絵



実施前

実施後

園児 H の絵

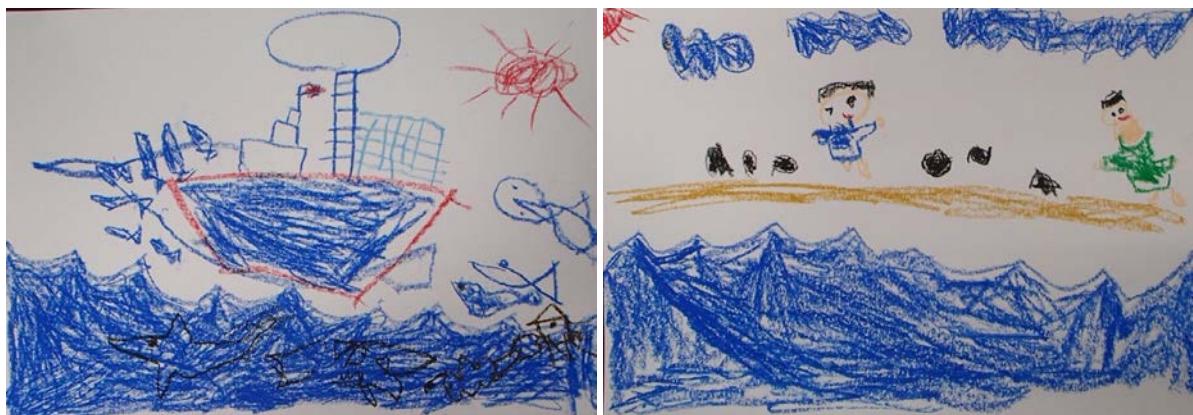
園児 G、園児 H の絵とも、実施前では、人が描かれておらず、魚や山があるだけであった。この絵を描いた園の子どもたちは岩場で活動をしており、そこでタコを見つけていた。そのためか、タコがどちらにも描かれている。また、釣りも行っており、園児 G の絵には、釣りをしている様子が描かれている。また、園児 H の絵は、人は描かれてはいないが、魚とカニとタコが描かれている。その描かれている場所に注目をしてみると、魚は底の方おり、タコは岩の間に身を隠し、カニは岩から顔を出している。それぞれの生き物がいた場所に忠実に描かれているように見える。生き物を探す中で、その生き物がいる場所を自然と理解して、絵に表現しているのではないだろうか。



実施前

実施後

園児Iの絵



実施前

実施後

園児Jの絵

こちらの絵を描いた子どもたちは、浜での活動をした。実施前の絵では、魚やイカ、タコ、船やサメなどが描かれているだけで、人は描かれていなかった。実施後の絵では、人や砂浜が描かれている。実施前では自由に絵を描いてもらっており、実施後では事業を通して思い出に残ったことを描いてもらったために、絵が違うのは当たり前のことではあるが、子どもたちが人と海と一緒に描いていることに、この事業の意義があるようを感じる。体験することで、海は、海が単独であるものではなく、自分とつながっているものだと捉えるようになったとしたら、子どもたちが様々なことを知るために、体験することは非常に重要なことであると改めて感じる。



実施前

実施後

園児Kの絵



実施前

実施後

園児Lの絵

本事業ではすべての園が、海の活動とともに、山の活動も行なっている。実施前では海や山の絵を描いてもらっていたが、ほとんどの子は海を描いていた。実施後においても、多くの子どもたちは、海の絵を描いていたが、中には山の絵を描いた子どもたちもいる。秋の山で落ち葉を踏んで、木の実を拾いながら、友達と一緒に歩いたことも、海の活動とともに、印象に残っているようである。

【平成27年10月23日（金）に参加した園の子どもたちの絵】

すべての園が海の活動を岩場（タイドプール）で活動をした。岩場があまり広くなく、一度に全員が活動すると危険も伴うと判断し、午前に海の活動を行う園と午後に海の活動を行う園に分けて実施した。午前に海の活動をしていない園は山の活動を行うようにし、山の活動も午前と午後に分けて実施することとした。



実施前

実施後

園児 M の絵



実施前

実施後

園児 N の絵

園児 M と園児 N の絵とも、実施前は海や山、砂浜等が描かれているが、実施後は、岩場が描かれている。他の子どもたちの絵を見ても、実施前の絵には、砂浜や魚が描かれていることが多い。一般的に、「海=砂浜」といった印象が強いためであると考えられる。しかしながら、海の生き物をたくさん見つけられる場所は、岩場であろう。岩場で海の体験をした子どもたちは、ヤドカリやカニ、ヒトデなどを見つけていた。魚だけではない多様な生き物が絵に描かれるようになったのは、こうした生き物がたくさんいる岩場での活動をしたからではないかと考えられる。



実施前

実施後

園児 O の絵



実施前

実施後

園児 P の絵

園児 O、園児 P の絵とも、実施前には人が描かれておらず、木々や動物などが描かれている。実施後では、笑顔の人や活動の様子が描かれている。園児 O の絵は、吊り橋をみんなで渡っているところの絵であろう、何枚もの横板が描かれている。また、園児 P の絵は、海が 2 色に分けられている。吊り橋がたくさんの横板でできていることや海の深さによって色が変わってくることなど、子どもたちは様々なものをよく見ている。それが絵にも表されているのではないかと考える。



実施前

実施後

園児 Q の絵



実施前

実施後

園児 R の絵

園児 Q、園児 R の絵とも、実施前は海と山を分けて描いていたが、実施後では、それを分けずに一つの絵にしている。海と山が隣り合わせになっているこの施設の自然環境で、同じ日にその海と山の両方を体験したことで、子どもたちが海と山のつながりを感じてくれたのではないだろうか。また、実施後の絵には、そこに自分らしき人が描かれている。海や山を自分自身が体験し、これまでに分かれていた海と山という自然環境を一つのものとしてとらえることができるようになったとしたら、それは、子どもの認知にとって、体験をすることが大きな意味を持つことを表しているのではないかと考えられる。

以上のように、子どもたちに実施前と実施後に絵を描いてもらい、その変化をみていった。ここで触れた絵以外にも、たくさんの子どもたちの絵から、一人一人の楽しかった活動の様子が見て取れた。言葉で表現することが上手な子どももいれば、絵で表現することが上手な子どももいる。幼児にとって、文字に表すことは、まだ字を習っておらず、十分に学習をしていない場合が多く、難しいことだと思う。こうして、絵にしてみると、意識的に、また無意識的に、見たこと、体験したこと、発見したこと

となどを描いているように見える。今後も絵による事業の評価について、理解を深め、子どもたちが成長したと言えるようなエビデンスをこれからも積み重ねる取り組みを続けていきたい。